

終戦直前の飛行場写真



米軍が撮影した海軍人吉飛行場(工藤さん、高谷さん提供)

破損機や迷彩の滑走路

玉名、菊池の西飛行場では、度重なる空襲で破損した格納庫や航空機が放置された状態で写っている。また、当時、県内で唯一コンクリート舗装された滑走路があった人吉飛行場は、上空から識別しにくいよう迷彩が施されている。

米軍は45年11月に南九州

見つけた写真は、玉名(玉名市)、菊池(菊池市)、黒石原(合志市)、隈庄(熊本市)の陸軍の各飛行場と海軍の人吉飛行場(錦町、相良村)の計52枚。沖縄に駐屯していた米軍の写真偵察機が撮影した。

同ネットワークと米軍資料調査を進める「空襲・戦災を記録する会全国連絡会議」事務局長の工藤洋三さん(山口県)が3〜4月に米国立公文書館で確認した。米軍が撮影した県内の飛行場の写真はこれまでも確認されているが、最も終戦に近い時期の撮影という。

玉名、人吉など 米機撮影の52枚

太平洋戦争の終戦直前の1945年7月27日、米軍機が県内の飛行場を撮影した写真52枚が米国立公文書館で見つかった。市民団体「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」(高谷和生代表)は「終戦に近い時期の写真で、本土決戦に向けた情報収集が目的ではないか」としている。(江口朋美)

に上陸する「オリンピック作戦」を計画していた。高谷さんは「米軍が日本にどう攻撃しようとしていたのかを推察する基礎的な資料になる」と指摘。「写真からは、日本軍が本土決戦に向けて地下などで基地化を進める中、米軍を欺くため

に空爆で破壊された基地を放棄していたこともうかがえる」と話している。熊本市立図書館で開催中の資料展「絵本・戦時資料から見た熊本空襲」で関連写真約10枚を展示している。資料展は26日まで、観覧無料。